

船井情報科学振興財団 2014年度 留学報告書 (11月)

ケンブリッジ大学工学博士課程デザインマネジメント専攻
重本祐樹

【正課活動】

ケンブリッジでの生活も2年目となりました。一年目のまとめである First Year Report を8月末に提出し、それに続く口頭試問も無事通過することができ、晴れて正式に PhD Candidate として進級する運びとなりました。とは言え、教授陣からやはりまだ自分の研究の未熟な点をいくつか指摘頂き、毎日研究計画書と顔を付き合わせながら理論の再構成に勤んでおります。しかしながら、何はともあれ少し肩の荷が降り、やっと本報告書を執筆しているところです。

博士課程の研究問題は「製品の意味性と象徴性をデザインに具現化することはどの程度可能であるのか？」というもので落ち着きつつあり、現在は実験計画の詳細を調整中です。もう少し詳しく言えば、製品開発において、インダストリアルデザイナーは製品コンセプトをどの程度正確に製品形態に表現し、そのコンセプトを意図したままに消費者に伝達できる（理解される）事が可能であるのか、という問題に挑戦しています。従来のデザイン工学研究の枠組みではこれまで焦点が当てられて来なかった視点と、既存の調査手法だけでは明確に測れなかったデザイナーの能力領域が研究対象となり、社会学と心理学の学識を援用した新手法および分析理論を構築しております。今学期中に計画書を仕上げ、来学期からは実証実験に入っていく予定です。

【課外活動】

本年度はバドミントン部の副会長、および十色会（ケンブリッジ大学日本人会のひとつ）の会長を努めさせて頂いています。また、役職はありませんがカレッジのボート部は続けております（暗さと寒さで段々と朝練が辛い季節になって来ていますが。。。）。

特筆すべきは本夏のケンブリッジ大学・オックスフォード大学バドミントン部による合同日本遠征でしょうか。2週間の日本滞在で、東京、新潟、山梨、愛知、滋賀、京都を訪ね、様々なバドミントンチームと練習試合をしたり、バドミントンに関連する企業を訪問させて頂いたり、日本の大学生との交流もさせて頂きました。（残念ながら私自身は夏休み中に足を怪我してしまい、あまりプレイには参加できませんでした。今学期は療養中です。）もしご興味を持って頂けましたら、ケンブリッジ大学バドミントン部ホームページより、詳細な遠征の様子を是非是非ご覧下さい (<http://www.cubac.org/>)。また、弊部は練習試合等随時受け付けておりますので、お気軽にご一報頂ければ幸いです。

【日常生活の徒然】

考えてみると、まだ一度もきちんと私の研究所、所属するデザインマネジメントグループ (DMG) の紹介をしたことがありませんでしたので、この辺りで少し触れさせて頂こうかと思えます。

ケンブリッジ大学工学部はエネルギー・流動工学科、電子工学科、機会・材料・デザイン工学科、土木工学科、製造業・マネジメント学科、情報工学科の6つの学科から成っており、私

船井情報科学振興財団 2014年度 留学報告書 (11月)

ケンブリッジ大学工学博士課程デザインマネジメント専攻
重本祐樹

が所属するのは製造業・マネジメント学科の研究所である **Institute for Manufacturing** です (IfM の愛称で親しまれています)。実は独自の建物を保有しているのは本学科のみで、他学科に比べて独立性が高く、他の5つの学科は全て工学部の建物内に存在しています。IfM ではその名の通り製造業一般に関する研究が行われており、産業構造や国際的製造業など産業全体を俯瞰的に研究するグループから、技術マネジメントや製造工学、イノベーション研究といったより分野特化型のグループ、また光化学(レーザー研究)グループやインクジェットグループなどの技術開発部も存在しています。DMG もその中のひとつであり、ものづくりにおけるデザインの知を研究しているグループです。例えば、私の研究の他には、新製品開発における消費者参画や、医療器具のデザインプロセス、空間デザインと消費者行動への影響などの研究が行われています。また、様々なグループが分野を横断してプロジェクトチームを組み、更には外部の政府機関や企業とも共同し、研究や実践プロジェクトに取り組んだりもしています。

DMG は指導教官の **Dr James Moultrie** (英国人) 指揮の下、私の同期にアメリカ人2名とメキシコ人、先輩は中国人とフィンランド人の合計7名の研究者で構成されております。**James** と私以外全員女性で、年齢も私が一番年下なので、同世代男子の新入生が入って来ないかな、と時々思ったりもします。とは言え、隣の席には産業サステナビリティグループのインド人、少し離れた所に技術マネジメントグループのドイツ人の男の子がおり、この二人とはよくお茶を飲んだりジムに行ったりしています。

IfM では修士生や最終学年の学部生も時々授業を受けていますが、学生の多くは博士課程院生です。博士院生の性別、国籍、年齢、バックグラウンドはとても多様で、大学(院)からそのまま進学の学生もおりますが、WHO での勤務や建築家としてのキャリアの後、また企業でエンジニアとして、マネジャーとして一定の地位を築いた後に入学してくる学生も非常に多くおり、自然平均年齢も高い研究所です。彼らは実務経験で培った技術力、洞察力や分析力があり、この点は議論を通じてよく学ばせて頂いております。一方、私の今までの経験や研究が彼らの助けになることもあり、お互い切磋琢磨して博士号取得に向けて邁進中です。

さて、以上で博士課程2年目の前期報告を終えさせていただきます。今冬はケンブリッジに残り研究を続け、1週間ほど欧州を旅して来ようかと考えております。既に日本での年越し蕎麦が恋しくもありますが、長い人生たまにはイタリアでスパゲティでの年越しもありかな、と。

最後まで読んで頂き、ありがとうございました。Merry Christmas & よいお年を $\Sigma d(\cdot \omega \cdot)$

2014年11月末日
重本祐樹
Doctoral Researcher
Design Management Group
Institute for Manufacturing
University of Cambridge
ys402@cam.ac.uk